

環境経営レポート

株式会社 医学生物学研究所

2023 年度

(対象期間: 2023 年4月1日 ~ 2024 年3月31日)



MBL 株式会社 医学生物学研究所
A JSR Life Sciences Company

(伊那研究所 第二生産棟)



発行日: 2024年5月16日

目 次

項 目	ページ
環境経営方針	2
組織の概要	3
実施体制図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	9
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	10
これまでの環境活動の紹介	11

環境経営方針

経営理念

株式会社医学生物学研究所は、深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効利用が人類共通の重要課題と考えております。臨床検査薬・関連製品及び基礎研究用試薬の製造、並びに受託製造等の事業活動における環境負荷の低減や社会に貢献する製品の開発を目指し、行動指針に従い全社一丸となって自主的・積極的に、環境への取り組みを進めてまいります。医薬品の適正使用や患者様のQOL改善に貢献する検査薬の開発を推進し、医療財政の低減化や人的な経済活動の活性化に貢献していきます。

基本方針



1. 次の事に取り組みます。

- ① 電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ② 水使用量の削減
- ③ 廃棄物排出量の削減（3R：廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化）
- ④ 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- ⑤ 化学物質使用量の削減

これらについて環境経営目標・環境経営計画を定め、毎年度及び大きな変更時に見直し、環境経営の継続的改善に努めます。

2. 適用される環境関連法規や当社が約束したことを遵守します。

制定日：2017年4月21日

改訂日：2023年6月16日

取締役社長 **伊藤 浩毅**

組 織 の 概 要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 医学生物学研究所
取締役社長 伊藤 浩毅

(2) 所在地

本 社 東京都港区芝大門2丁目11番8号 住友不動産芝大門二丁目ビル
伊那研究所 長野県伊那市手良沢岡1063番地103
伊那研究所 第二生産棟 長野県伊那市手良沢岡1018番地1
筑波研究所 茨城県つくば市御幸が丘25 JSR筑波研究所
配送センター 千葉県印西市鹿黒南二丁目2グッドマンビジネスパーク Stage3 North3階

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 伊那研究所管理部部長 岡田 邦宏
担当者 伊那研究所管理部 TEL : 0265-76-1777 (代表)

(4) 事業内容

伊那研究所： 臨床検査薬、関連製品、並びに基礎研究用試薬の製造
筑波研究所： 臨床検査薬の研究開発

(5) 事業の規模

売上高 31,132,550 千円

	本 社	伊那研究所	伊那研究所 第二生産棟	筑波研究所	配送センター	合計
従業員 名	123 名	106 名	62 名	49 名	1 名	341名
延べ床面積 m ²	900 m ²	6170 m ²	3800 m ²	897 m ²	999 m ²	12,766m ²

(6) 事業年度

4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

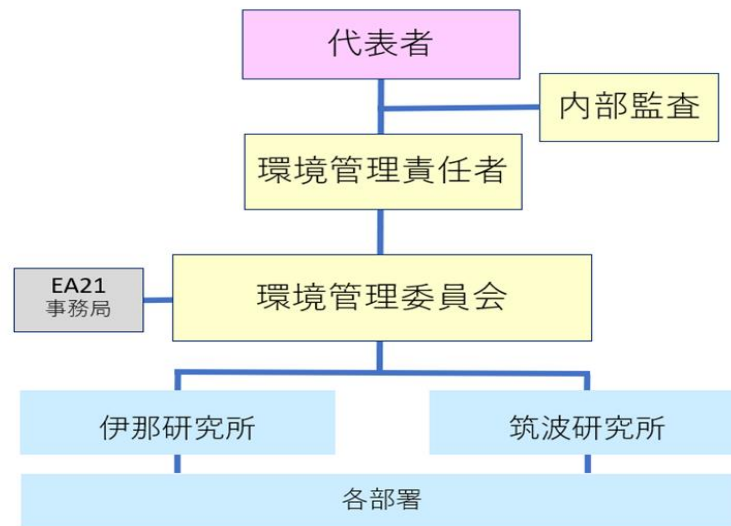
口認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社 医学生物学研究所 (サイト認証)
対象事業所： 伊那研究所
伊那研究所 第二生産棟
筑波研究所

対象外： 本 社 ・ 配送センター
活 動： 検査試薬の研究開発及び製造。

実施体制図及び役割・責任・権限表

更新日：2021年9月8日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの運用に必要な人、設備、資金、情報等の準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標及び環境経営計画承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築運営、維持管理 ・環境関連法規などの取りまとめ ・環境経営計画の進捗状況の確認とその評価 ・全体の見直しに必要な情報の代表者への報告 ・環境経営レポートの確認
部門責任者	・環境経営方針及び各自の役割、責任及び権限の自部門従業員への周知・徹底 ・環境経営目標並びに環境経営計画に従った取組の実施と、必要な記録の作成、及び報告 ・自部門に関連する問題点の発見、是正、予防処置の実施
EA21事務局	・環境管理責任者及び部門責任者の補佐、環境管理委員会の事務局 ・環境関連法規等取りまとめ表／遵守評価記録の作成 ・環境経営目標、環境経営計画原案の作成 ・環境経営計画の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポート作成と公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境管理委員会	・環境経営目標及び環境経営計画の審議 ・環境活動の実績の確認と評価
環境内部監査事務局	・内部監査の計画 ・内部監査の実施と報告
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性の自覚 ・環境活動への自主的・積極的な参加

主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,783,565	1,460,412	1,416,663
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	14,251	11,496	11,017
産業廃棄物排出量	kg	56,455	43,129	34,961
水使用量	m ³	14,018	8,674	4,670
※電力の二酸化炭素排出係数(調整後)		0.502	0.470	0.459
※2021年度のデータは期初から期の途中まで		ダイヤモンドパワー(株)	中部電力	中部電力ミライズ

kg-CO₂/kWh

環境経営目標及びその実績

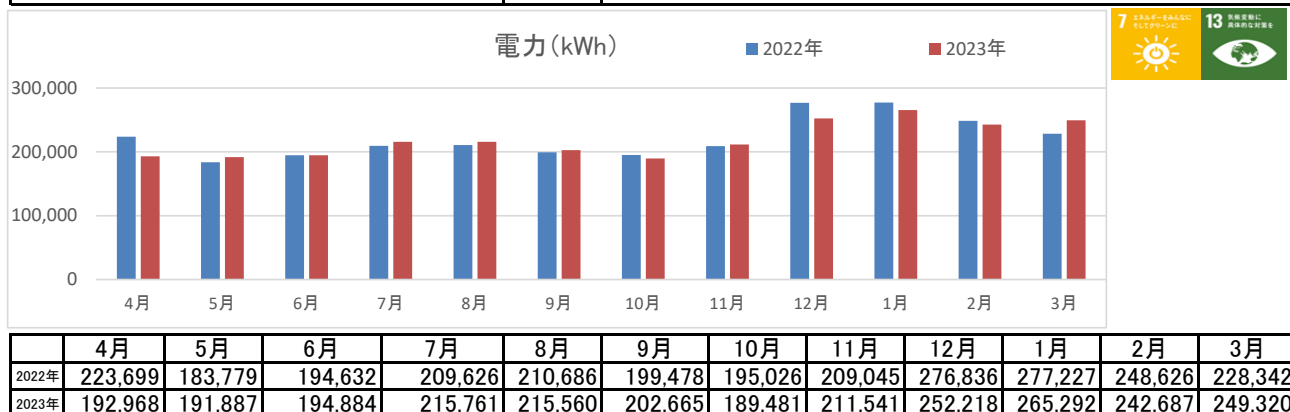
年 度		2022年	2023年		評 価	2024年	2025年
項 目		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kWh	2,657,002	2,630,432	2,624,264	○	2,603,862	2,577,292
	基準年度比		99%	99%		98%	97%
売上高原単位	kWh/千円	0.063	0.062	0.084	×	0.062	0.061
	kg-CO ₂	1,248,791	1,236,303	1,204,537	○	1,223,815	1,211,327
売上高原単位	kg-CO ₂ /千円	0.030	0.029	0.039	×	0.029	0.029
	kg-CO ₂	5,160	5,108	4,519	○	5,056	5,005
自動車燃料による二酸化炭素削減(伊那のみ)	基準年度比		99%	88%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	1,253,951	1,241,411	1,209,057		1,228,872	1,216,332
一般廃棄物の削減	kg	11,496	11,381	11,017	○	11,266	11,151
	基準年度比		99%	96%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	43,160	42,729	35,227	○	42,297	41,866
	基準年度比		99%	82%		98%	97%
水道水の削減	m ³	2,162	2,141	1,564	○	2,119	2,097
	基準年度比		99%	72%		98%	97%
地下水の削減	m ³	6,512	6,447	3,106	○	6,382	6,317
	基準年度比		99%	48%		98%	97%
有機溶剤の使用量削減(伊那のみ)	kg	4,963	4,913	3,050	○	4,864	4,814
	基準年度比		99%	61%		98%	97%
環境に配慮した製品・サービスへの取り組み	行動目標(次項による)						
課題を解決しチャンスを活かす取組	行動目標(次項による)						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

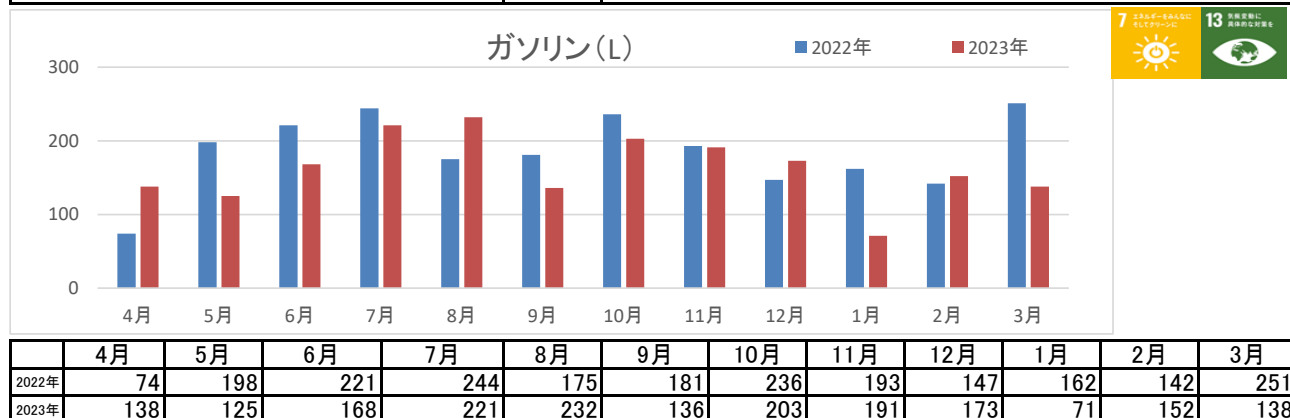
数値目標:○達成 ×未達成

活動:○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

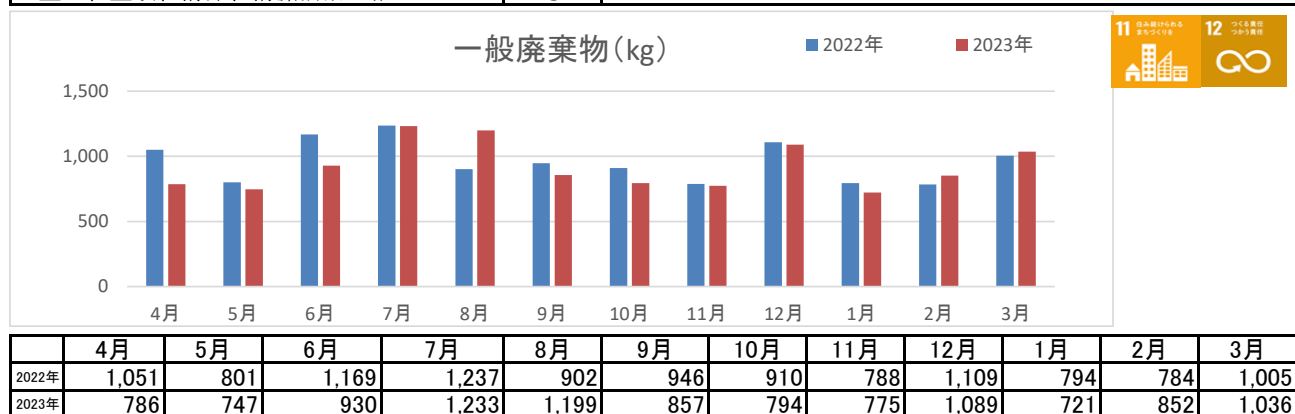
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	電気使用量の目標値超過は散見されたが、生産活動の活発化にも影響されるので制限することはできない。インフラ整備として今年度はエアコンの整備(新調)をすすめ全体の7割ほどは省エネ対応の筐体に変更した。設備としてのデマンド値低下に期待したい。来年度は前年比マイナス1%を目指すのではなく、生産活動に左右されることから、生産活動を制限することなく節約を意識した、±1%の増減に抑えるということとする。 また、伊那研及び筑波研では使用量分の非化石証書を購入しておりGHG排出量に貢献をしている。
原単位目標	×	
・空調温度の設定管理(各職場の作業環境により設定。GMP等の特定エリアは除く)	○	
・不在時と休憩時の消灯実施	○	
・照明のLED化の推進	○	
・空調等管理の適正化(第二生産棟)	○	
・間引き照明の実施	○	



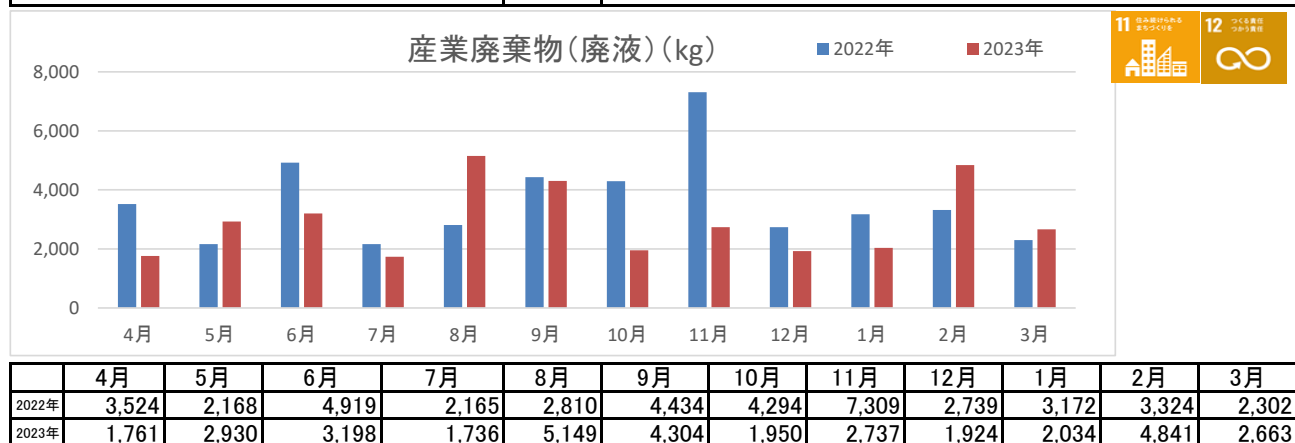
自動車燃料による二酸化炭素削減(伊那のみ)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	コロナ禍で整備されたWeb.会議が浸透し、会議での出張という動線が減った。今後もこのスタイルを継続していくことで社有車の使用を抑える。
・社有車のハイブリッド化/低燃費車化の推進	○	
・エコモード運転の励行	○	
・公共機関を利用した出張の励行	○	
・出張の必要性和吟味とWeb会議の活用	○	



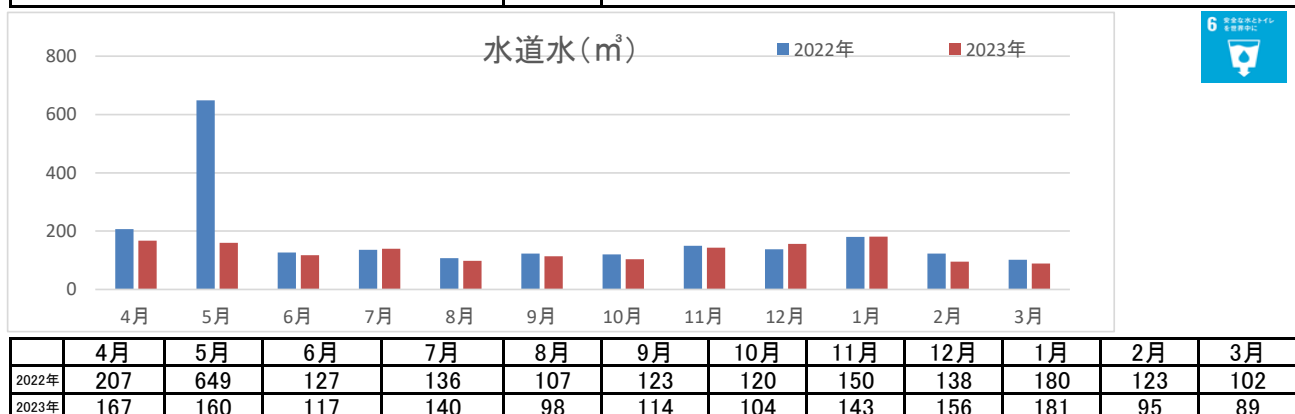
一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	不用事務品の寄贈や再利用などリサイクルに向けた活動が一般廃棄物量の低減につながった。この活動を継続していきたい。
・ペーパーレス会議の推進	○	
・分別の徹底による古紙等のリサイクル化の推進	○	
・書類の電子化の推進	○	
・整理、整頓、清掃、清潔活動の推進	○	



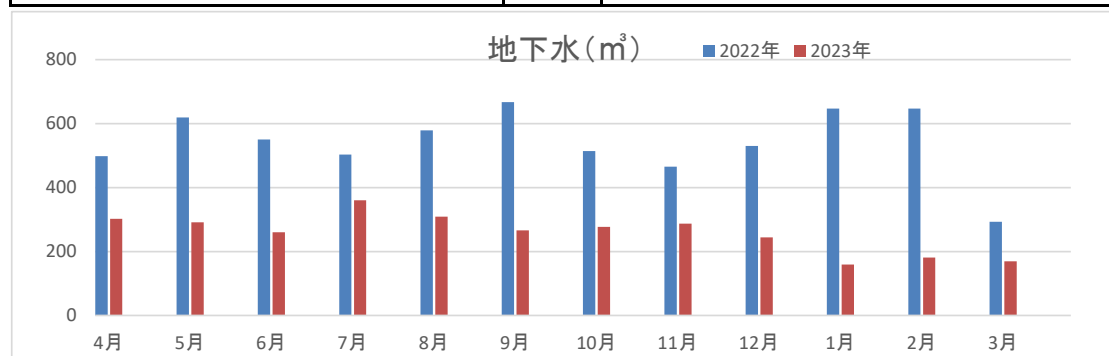
産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	全社的に生産ミスの低減、廃棄ミスの低減の意識と議論を活発に行うようになり、努力している。つくば研は人数按分されているので来年度からはモニタリング対象外とする。
・工程廃棄品の削減（不良品発生抑制）	○	
・在庫品廃棄の削減	○	
・実験廃棄品の削減	○	



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	生産活動が増えることで製品廃棄(産廃)も増える課題もあるので、前年比±1%に抑える意識で取り組んでいく。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・計画的安定生産による適正使用量の維持	○	
・計画的実験による適正使用量の維持	○	

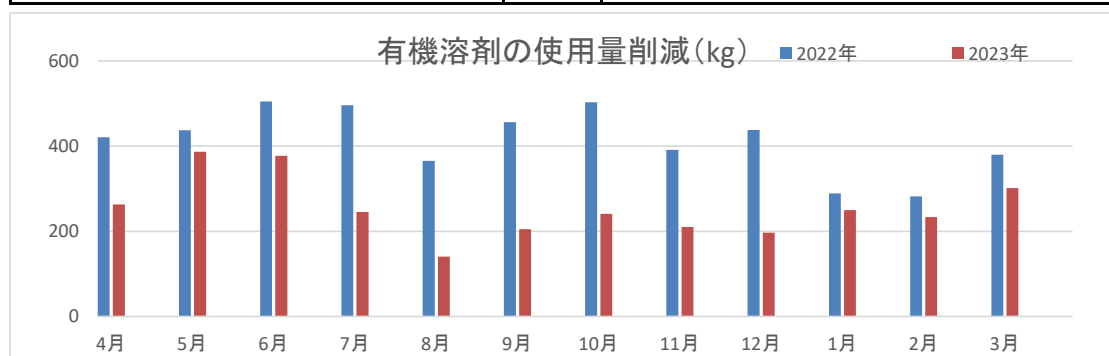


地下水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	生産活動が増えることで製品廃棄(産廃)も増える課題もあるので、前年比±1%に抑える意識で取り組んでいく。また伊那研においては飼育動物が減ったため来年度の使用量は減る見込みである。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・計画的安定生産による適正使用量の維持	○	
・計画的実験による適正使用量の維持	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	498	619	550	503	579	667	514	465	530	647	647	293
2023年	302	291	260	360	309	266	277	287	244	159	181	170

有機溶剤の使用量削減(伊那のみ)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	生産活動が増えることで有機溶剤使用も増える課題もあるので、前年比±1%に抑える意識で取り組んでいく。
・計画的安定生産による適正使用量の維持	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	421	437	505	496	365	456	503	391	438	289	282	380
2023年	263	387	377	245	140	205	241	210	197	250	234	302

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用法令	遵法評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	○
毒物及び劇物取締法（毒劇法）	○
麻薬及び向精神薬取締法	○
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）	○
有機溶剤中毒予防規則（有機則）（労働安全衛生法の有機溶剤対応）	○
特定化学物質障害予防規則（特化則）	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法） 第一種特定製品の管理者の判断の基準（告示）	○
消防法 危険物の規制に関する政令（危政令）	○
下水道法 伊那市下水道条例	○
水質汚濁防止法（水濁法） 長野県 良好な生活環境の保全に関する条例（県 生活環境保全条例） （旧 長野県公害防止条例）	○
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律（公害防止組織整備法）	○
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 （小型家電リサイクル法）	○
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	○
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律 （容器包装リサイクル法）	○
手良地区農業集落排水処理施設への接続に係る協定書（伊那市協定）	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去３年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

2023年4月～2024年3月の期間で環境に関する苦情や要請はなかった。

緊急事態対応の試行・訓練



緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年10月26日（木）	■実施場所 伊那研究所既存棟合同、第二生産棟
■参加者： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため全員参加で避難訓練を実施	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 非常ベル鳴動・館内放送・現場確認－責任者への連絡・避難指示・避難指示放送・集合・確認・本部への報告の一連の行動の確認	
■評価： ・初期消火訓練（既存棟のみ） ・参加者防災訓練参加者 既存棟(91名)+第二生産棟(52名)：計143名 <初動訓練> ・既存棟ではベルと放送で新棟2階 抗原抗体開発Uのスタッフルームで聞き取り難いという声があった。 →放送は昨年と同様に聞きづらいという意見があり、放送設備の更新を進める。 <避難訓練> ・第二生産棟で災害時にパスルールの常時開錠状態の方法について知らない方がいた。 →パスルールの開錠方法を掲示した。 <消火訓練> ・参考になったという意見が多かった。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子 	

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年5月16日

当社ではエコアクション21において、伊那研およびつくば研における環境に関する項目、コンプライアンス、地域活動について目標値を設定し、その結果をモニタリングしております。
 2023年度はいずれの項目についても目標を達成しており、これは従業員の皆様の努力の賜と理解しております。
 今後もエコアクション21の意義を理解し、引き続き目標達成に向けた努力をお願い申し上げます。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☒ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介

●手良地区地域活動

地域住民の方と協力して手良坂花壇の整備(花植え)を行いました。



●中古ファイルの寄贈

前年に引き続き、使用しなくなった事務ファイルを綺麗に仕立て直し、伊那市社会福祉協議会に85冊寄贈いたしました。



●野鳥保護活動～ブッポウソウ観察会～

伊那谷の自然を守る活動の一環として、中川村の四徳大橋に設置した巣箱に営巣したブッポウソウを観察しました。餌を捕まえて巣箱に運ぶ姿や、巣箱に向かって急降下する姿などを観察することができました。



●世界各地で難民の状況となった学生との交流会

一般財団法人 パスウェイズ・ジャパンは、難民の背景を持つ人々を、教育を通じて広く社会へ受け入れる環境・仕組みを、日本で創りだしていく活動をおこなっています。

MBLはJSRライフサイエンス事業の一員としてこの活動に賛同し、難民留学生と社員の交流会を実施しました。



●西武鉄道「環境活動・地域貢献活動プロジェクト」への参加

秩父エリアを中心とした地元自治体が進める地域環境保全活動、環境資源の見学・体験に参加しました。秩父産ワインを製造するワイナリーでは見学と農園作業の手伝い、羊山公園では約1,800本の芝桜の苗植えを行いました。復路の観光列車内では、地域食材を使用したディナーとともに、食育インストラクターによる食育を通じて、地域の農産物、食文化への理解を深めました。



●新型コロナウイルス抗原検査キットの寄贈

MBLは伊那市へ2万キット、G&Gサイエンスは福島市へ2万キットの抗原検査キットを寄贈しました。
令和4年春に続き2回目となります。



●伊那市で出前授業の実施

伊那市立手良小学校で、5年生18名を対象とした出前授業を行いました。
会社の説明、顕微鏡での細胞観察、検査キットを用いての実習をおこない、楽しく学んでいただきました。

